

日本工営株式会社

【テーマ】 戦略的なインフラマネジメントを担う自治体の体制の確保 / スモールコンセッションの推進 / グリーン社会の実現 / その他（ ）
 【対象施設】 道路 橋梁 公園 上下水道 河川 港湾 / 遊休施設 / その他（ ）
 【事業方式】 コンセッション その他のPFI / 包括的民間委託 / その他（ ）

街路樹・公園等公共樹木の情報管理DX化

公共樹木管理は、管理者が保持する台帳、維持管理者の作業報告、点検・診断者による診断結果等が個別に存在し、相互の連携が取りにくく効率的な管理の支障となっていました。これを外部サーバーで一括管理し、官民の関係者がそれぞれに情報閲覧・更新可能な情報プラットフォームとして整備・運用する仕組みを提案します。

①提案によって解決することができる課題のイメージ

- 課題1** 公共樹木管理に係る施設管理者、維持管理者、点検・診断者、自主管理の市民等の関係者がもつ情報が十分に共有できていない
- 課題2** 同一の樹木について樹木点検・診断や維持管理作業の情報が個別に存在し、全体的な情報が得られない。また情報が更新できず陳腐化しやすい
- 課題3** 公園・道路等で管理する公共樹木の全体数や位置情報が未整備で、計画的な管理のための基礎データが不足している
- 対象** 多数の公共樹木を管理し、管理効率化を図りたい自治体、施設管理者

②提案内容

公共樹木情報プラットフォーム構築のメリット

クラウド上のデータベースで樹木関連情報を一元的に管理
 →多様な関係者による情報へのアクセシビリティが向上・情報共有により円滑な管理に寄与

- 外部クラウドサーバーでアクセス権限を個別に管理することで、さまざまな係り方の関係者が必要な範囲で情報閲覧・更新する仕組みが構築できます。
- 管理者だけでなく、関連する事業者も樹木の履歴確認や要注意木の抽出が容易に行え、作業効率・安全性向上につながります。

作業結果をその場で街路樹データベースに登録・共有可能

→情報のリアルタイム性が向上

- データベース構築後は継続的なデータ更新が重要になりますが、定期的な作業時に更新する運用とすることで最新情報が保たれます。
- 危険木や要注意木など、安全上重要な情報にスピーディーにアクセス可能にすることで、迅速な対応が可能になり、予防的な安全管理につながります。

位置情報との連携 →現場でのデータ登録・確認が容易

- モバイル端末でのデータ確認・入力が容易なシステムとし、リアルタイムでのデータ活用により管理や点検・診断を効率化します。

情報プラットフォーム運用例



